

経済学の現状に立脚した「質保証」とは

2013年4月16日

宮川 努

(学習院大学)

0. 経済学とは(古典における定義)

- 子貢曰く「もし、博く民に施して、よく衆を濟う
あらば、いかん。仁と謂うべきか」。子曰く「な
んぞ仁を事とせん。必ずや聖か・・・」。『論語』
- 「政治経済学は、日常の経済生活において、
人々の幸福の達成に必要な物質的な利用及
び取得に関わる個人または社会活動を研究
する学問である」(意訳)。Alfred Marshall
(1920) *Principles of Economics 8th Edition*

0. 経済学とは(古典における定義)

- 「経済学とは、代替的用途をもつ希少な諸手段と諸目的との間の関係として人間行動を研究する学問である」。L. Robbins (1932), *An Essay on the Nature and Significance of Economics*.
- 「経済学が、政治経済学から分かれた理由は2点ある。一つは、理論とその応用の分離。もう一つは統計的または歴史的事実と理論の分離である」。(最初の部分の要約) F. Night (1951), “Economics”, *Encyclopedia Britannica*

1. 様々な立場からの経済学に対する考え方

- 日本経済学会2002年度秋季大会・2003年度秋季大会において、経済学教育に関するパネル・ディスカッションが開かれる。

- 2002年度秋季大会「経済学教育の実践的課題」

- パネリスト

前川功一(広島大学(司会))・西村和雄(京都大学)・吉野直行(慶應義塾大学)・加納悟(一橋大学(故人))・宮川努(学習院大学)・早川英男(日本銀行(当時))

1. 様々な立場からの経済学に対する考え方

- 2003年度秋季大会「経済学教育と大学改革」
パネリスト

岩井克人(東京大学(当時)(司会))、石弘光
(一橋大学(当時))、葛西敬之(JR東海)、篠塚
英子(お茶の水女子大学(当時))、篠原総一
(同志社大学)、春名章二(岡山大学)

1. 様々な立場からの経済学に対する考え方

経済学の特徴

- (1) 数学的なツールの修得も含め、合理的思考を体系的に積み上げていく学問。
- (2) 経済社会の仕組みを理解し、それを改善していくための基礎概念を学ぶ学問。
- (3) 経済現象は数値化しやすく、数値化されたデータを扱い、様々な経済問題に対する判断材料とする能力を養う。

1. 様々な立場からの経済学に対する考え方

従来型の経済学教育に対する反省点

1. これまでの経済学における学問的蓄積が膨大となり、現実の経済的問題を考察する応用課程までのギャップが大きい(役に立つvs役に立たない)。
2. 学生に基礎理論(または数学、統計学)を学ばせる動機づけをどのようにするか。
3. 社会において経済学を学んだ卒業生固有の役割が希薄。

1. 様々な立場からの経済学に対する考え方

社会人からの経済学教育に対する評価

1. 合理的思考を修得することについては評価。
2. 社会が大学卒業生に要請している「課題設定能力」、「問題解決能力」、「論理的思考能力」は、特に経済学を深く学ばなくても修得できる。
3. 経済学の専門能力者も、経済学部卒業生でなくとも育成することは可能。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 経済学の定義

(1) 家計・企業、政府の様々な経済活動を経済合理性の観点から捉える学問である(企業分野では経済学と重なる部分がある)。

(2) 上記の経済活動の結果生じる経済現象及び経済制度を、資源配分の効率性、公平性の観点から評価する学問。

(3) 数値化された経済データから経済現象を判断し、かつ経済理論に基づき、具体的な経済問題や経済制度の改善につなげる学問。

注：経済史をどのように位置づけるか。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 経済学の構成：体系性を重視

基礎科目：ミクロ（ゲーム理論を含む）、マクロ、統計学

応用科目：財政学（公共経済学）、金融論、経済政策、国際経済学、国際金融論、産業組織論、労働経済学、環境経済学、計量経済学、都市経済学など

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 経済学固有の特性とは

(1) 社会科学の中では、完成された体系性の中で基礎から応用へ段階的に学ぶことができる。

(2) 社会科学の中では、学問用語の定義と意味が世界的に標準化されており、経済学を修得した者の間では、コミュニケーションが容易（日本のビジネス社会の要請に直接あてはまるかどうかは疑問）。

(3) 資源配分に関して、一定の評価基準が確立しており、それにより経済状態や経済システムに関する評価が可能。

(4) 多くの経済データが数値化されており、理論の検証が可能。加えて(3)の評価基準と組み合わせて、家計、企業、政府の経済活動や経済社会システム全体の改善に向けての提案が可能。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 基本的な知識と理解について

(1)一般的な社会人が有すべき知識と理解

- ・民主主義社会では、政府の諸政策に対して、有権者がそれを評価できる能力を有していることが前提となる。→経済の仕組みや経済政策の概要について、すべての有権者が知っておかなければ、選挙制度を通じた経済社会の改善は期待できない。

(2)政策担当者が有すべき知識と理解

- ・政策担当者、自らが立案する政策の経済効果について、一般的な社会人が有する以上の知識(基礎理論とその応用)を有し、かつそれをわかりやすく一般に説明できる能力が必要。

(3)専門的な職業人が有すべき知識と理解

- ・学問上または経済的課題について、それを進展させるまたは改善させるような知見を有する必要がある。すなわちミクロ、マクロ、計量経済学に関しては上級テキストレベルの知識を修得し、かつフロンティア部分の文献を理解できる力が必要とされる。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 経済学の修得によって得られる基本的な能力

(1) 一般的な社会人のケース

社会現象の本質を抽象化でき、それを説明できる能力 (ITリテラシーを含む)。

データを理解し、それを表現できる能力 (初歩の数学的能力、グラフで表現方法を含む)。

経済的なトピックの概要を理解できる能力。

(2) 政策担当者のケース

経済現象や経済政策の影響を (経済主体間や組織間の相互作用も含めて) 予見できる能力。そして、それを平易に説明できる能力。

(3) 専門的な職業人のケース

経済理論や現実経済の課題に関して新たな手法や解決方法を提示できる能力。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 学習方法

1年生－2年生：基礎理論の修得（数学、外国語、統計学の修得を含む）

2年生－3年生：応用分野の修得

2年生－4年生：演習を活用し、現実の経済問題を中心に、自ら課題を理解し解決策を考える場を設ける。

3年生－4年生：実務家の講義を入れ、現実の経済問題に対する関心を深める。

3年生－4年生：先ほどの(2)と(3)を志向する学生には、大学院との共通科目を設け受講を進める（経済学の多様化への対応策）。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 評価方法

教育はトレーニングの一つであり、講義の場合は、講義の出席、講義中の課題達成度と試験で評価すべきである。

演習の場合は、出席、演習参加への積極性、報告資料の内容等による評価がある。

2. 経済学教育に関するディスカッションから見た経済学の参照基準

- 経済学教育と教養教育

(1) 経済学を活かすツールとして、数学、統計学、外国語の修得は必須。ただしこれには高等学校教育課程の改革も必要。

(2) 入学前後に、経済学部生として読んでおいて欲しい書籍を各教員が3冊(できれば経済学以外のもの)くらい推薦する、または一橋大学のように初学者向けの本を出版するなど、経済学の修得を通じて、どれだけ人間の幅を広げられるかがわかる制度を設ける。

(3) 経済学は、もともと政治経済学と呼ばれていたことからわかるように、他の社会科学との関係が切り離せない。また近年の行動経済学の発展にも見られるように、心理学や脳科学などの分野とも関係性を深めている。その意味で卒業後社会人になるかさらに専門分野を専攻するかにかかわらず、関連分野の講義が修得できるように配慮する。

3. 教育改革と参照基準の意義

- 参照基準が、真の大学における経済学教育の質保証となるために
 - (1)高等学校教育(もしくは入学時の導入教育)までの数学や政治・経済教育の改善
 - (2)参照基準を大学での経済学教育評価に反映させる工夫
 - (3)社会が、各分野の特性に応じた人材の採用や育成、配置を考慮しているか